

令和5年度 いのちの授業 事例集（高校）【国語】

掲載数

15

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 神奈川県	高1	国語	科学と人間	1年必履修科目「現代の国語」において、評論「生と死が創るもの」の学習を行った。臓器移植に反対する人々の気持ち、また人の命に対して科学的なものの見方とその功罪、また単細胞・多細胞から見た命について考察を深め、多細胞である人間は一代限りで命を終えるよう遺伝子レベルでプログラミングされていること、そして、多細胞生物である人は、遺伝子情報を引き継いで精一杯一代限りの人生を生きなければいけないということを読解した。	教科書掲載の評論作品を活用して情報の収集・整理・まとめに取り組んだ。
2 神奈川県	高2	国語	夏目漱石『こころ』の学習。人の死が意味するもの	2年必履修科目「文学国語」において、夏目漱石作、小説『こころ』を教材として取り扱った。登場人物のKが精神的に追い詰められて自死に至った経緯、また、そのことから周囲の人々に与えた心情の動きを学習した。さらにはKの友人である「私」自身が死を考えるようになった様子から、人間の尊厳・いのちの尊さを考える一助とした。死によって起こされる身近な人の衝撃、苦悩などの心情理解を通して、いのちが持つ意味、重みを理解し、考えさせた。	教科書掲載の小説作品を活用して情報の収集・整理・まとめに取り組んだ。
3 神奈川県	高1	国語	いのちのはかなさを考える	夏目漱石『夢十夜』の中に登場する「女」の描写をもとに、いのちのはかなさについて学習をした。生きている時点での「女」は色鮮やかな描写がなされており、とても死ぬとは思えない。「女」の死についてグループワークをする中で、「いのちのはかなさ」「いのちの大切さ」といったワードが多く登場し、考えを深めることができた。	言語文化の中で実施。教材は、夏目漱石『夢十夜』の第一夜。
4 神奈川県	高2	国語	なめとこ山の熊	著者の宮沢賢治の生きざま、マタギの主人公の行動や考えを通し、命の尊さや大切さ、失う時のはかなさを伝え、生徒自身が命について向き合う機会となった。	
5 神奈川県	高1	国語	生とエゴイズム	内容読解を中心に、主人公の行動を通し極限状態における「生」を考えた。どこまでエゴイスティックに生きることができるのかさまざまな意見が出る中で、生徒一人ひとりが自分事として「生きる＝いのち」を考える機会を得た。	(教材) 芥川龍之介「羅生門」

6	神奈川県	高1	国語	「羅生門」芥川龍之介	社会環境により経済的な困窮と生命の危機にさらされた主人公の行動や心情、社会的背景について読み深めさせた。作品の舞台となる時代と現在の環境や制度、倫理観の違いをふまえつつ、自分の命を守るということ、自他の生命を共存させることとはどういうことかを考える基盤をつくった。また、生命の危機は個人の事情だけが原因ではなく、経済的・社会的な要因も含まれているということ気付かせるきっかけを与えた。	本校所属の教諭による授業 (参考資料) ・教科書
7	神奈川県	高1	国語	言語文化「羅生門」	「羅生門」において下人は職を失い盗人となるが、社会福祉や教育、公衆衛生、労働観など、様々な視点からこのような人を生み出さない方法を考えさせた。 生徒たち自身がゴールを考え、そのためにどのような対策ができるか考えることで、身近な問題として捉えることができた。	
8	神奈川県	高3	国語	「人生や生き様を変え得るもの」を導き出して発表する	各個人の過去を共有し合い、今後の生き方を変え得るものについて話し合ってからそれをスライドにまとめ、グループごとに発表した。発表内容や発表後の振り返りからは、「他者との比較が自分の生き方を形づくっていくこと」「幼少期のふれあいが重要であること」「様々なものに個性があること」「家族への感謝」「物づくりが人をつなぐこと」「これからの自分を大切にする方法」等を考え実感したことが見て取れた。	(教材) ・Googleスライド ・各生徒が持ち寄った資料
9	神奈川県	高2	国語	文学国語「沖縄の手記から」	田宮虎彦著『沖縄の手記から』を題材として、授業を行った。修学旅行を11月に控えた時期に授業を設定し、修学旅行に向けた平和学習の学びも生かしながら生命の尊厳や大切さを学ぶ機会とした。	第二次世界大戦下という特殊な状況でありながら、リアリティのある筆致を通して命の大切さや人の尊厳について考える授業となった。
10	神奈川県	高3	国語	裁判員制度について理解し、死刑制度について考える	一般に高等学校3学年生徒が18歳以上を対象とする裁判員の候補者となり得ることから、裁判員制度に対する理解を深め、実際に裁判員制度の対象となり得る凶悪犯罪の被害者遺族の講演を読み、死刑制度について考えた。 内容に関する意見、感想を話し合った後、作文として記し、その内何点かを印刷して配付することにより、他者の考えを知り、自分の考えを振り返った。 今まで報道としてしか接することのなかった凶悪犯罪の遺族の声を身近に読むことにより、現実味を帯びて捉えることが出来、裁判員についても心構えが持てたようであった。	《教材》 ・「死刑制度の存廃に関する主な論拠」(法務省報告書より抜萃) ・「死刑制度廃止論 闇サイト殺人事件遺族の磯谷富美子さん基調講演詳細」(産経ニュース)

11	神奈川県	高3	国語	ヴィーガンに関する取材記事を通じて、食肉生産の現状を知り、食材の命について考える	<p>ヴィーガン思想に疑問をもった著者の取材記事を通じて、食肉生産の現状を知り、食材の命について考えると共に、ヴィーガン思想に対する賛否について理解する機会を設けた。</p> <p>本記事は、自ら畜産の現場に入り体験取材し、ヴィーガンに対して中立の立場から賛否それぞれの関係者に取材して自己の立場を決定するという内容で、博学、審問、慎思、明弁、篤行の実践として非常に評価できる記事であることから、今後の学問や人生における参考になると考え、取り上げた。</p> <p>今まで知ることのなかった畜産、屠畜の実情を知りとても驚いたとの声や、畜産、屠畜に携わる方々への感謝の言葉、筆者の行動力に驚嘆したとの感想が聞かれた。本単元でも感想等を記述させ、他の生徒に紹介した。</p>	<p>《教材》</p> <p>・「私は一ヶ月後、この牛を殺します。～私がヴィーガンにならないと決めるまで～」 (ロカフレ)</p>
12	神奈川県	高2	国語	「少女たちの『ひろしま』」	<p>「少女たちの『ひろしま』」という広島への原爆投下による少女たちの日常が奪われることを、現存している衣服の存在から命の尊さを学んだ。生徒たちにはまとめ部分で、戦争がなぜ起きてしまうのか、戦争を起こさないためには自分たちは何から取り組んでいけばいいのかという視点で授業を進めていった。その中で命を守る、日常を奪わないために個人レベルでどのような行動ができるかを考え学び合った。</p>	<p>国語科教員 「少女たちの『ひろしま』」</p>
13	神奈川県	高3	国語	小論文	<p>教育系「生命の授業」医療系「病者の問いかけ」の二つの課題型小論文にて、教育における生命尊重と食の問題について、医療系における倫理観、患者とのかかわりについて考察した。</p>	<p>・98年島根大学(教育)、04年浜松歯科大学(看護)の小論文</p>
14	神奈川県	高3	国語	いのちと友情	<p>教科書教材「こころ」を題材に、自殺をテーマに考察をした。重いテーマではあったが、生徒にいろいろ考えさせることができ、自らの行動や他者への振る舞い・言葉がけが相手の命にもかかわることなどを心に刻んだ様子だった。</p>	
15	神奈川県	高1	国語	生と死について考える	<p>「I was born」という詩を通して命の尊さについて学ぶ。</p> <p>詩の中で、かげろうは成虫になると、体が餌を食べれない構造になり、その代わりに、体の中に無数の卵を抱える。卵を産んだら死ぬ。母親はお前を生んだ時に死んだことを父が話す。という描写がある。</p> <p>「なぜ父は母の話をする前にかげろうの話をしたのだろうか」ということについて考え、生を受けること、死ぬことについて考え、命の尊さについて考えを深める授業とした。</p>	<p>『標準言語文化』 第一学習社</p>